

放生（ほうじょう）の注意点

① このままだったら、その生き物が殺されてしまうという状況から救い出す事。

○： 浜辺で売られている生きた貝を買って、生き延びる最適な環境に戻してあげる。

X： 自分自身で 浜辺などにて、貝を集めて、 再び戻してやる。

② 環境にあっているかを良く考えて放生すること。

○： その生き物は、 その環境で生きていく事が適切でしょうか？
暑い、寒い、水温、季節なども大丈夫ですか？
それによって反って、命を奪う行為になっていませんか？

X： その殺されかけている生き物が、生態系を乱しませんか？
その環境で生き延びるからといって生態系を乱すような外来種などを
野山、海辺、川に戻す事はいけません。 絶対に止めましょう。

その他として、

放生ではありませんが、
例えば保健所で殺されてしまう動物を助けて、犬猫を引き取って育てる等は、
とても良い徳分となります。

しかし、 動物の命と向き合うという事は、 長期間続きます。
例えば10年15年という期間となります。 安易な気持ちでは、しないよう
に心がけましょう。

[【具体的にできる放生（ほうじょう）】のページに戻る](#)